

令和6年度 青梅市立第七小学校 学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞	1 豊かな心の育成	2 確かな学力の向上
	3 健やかな体の育成	4 家庭や地域との連携

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
豊かな心の育成	「他とともに尊重する」「仲良く助け合う子」を育成する	人権教育・心の教育の推進による自己肯定感の向上	清掃や集会、学校行事などでの異年齢集団（たてわり班）による活動や交流活動の充実を通じて、思いやりや尊敬の念、自己肯定感の育成を図る	B	たてわり班活動を通し、上級生が下級生の面倒をよく見ている 教員間の情報共有をさらに図る	たてわり班活動の意義の共有を徹底し、教職員の構成が変わっても、スムーズに進行できるようにする	A	七小のたてわり班活動は、子供たちを大きく成長させている	七小の大きな特色として、引き続きたてわり班活動の充実を図る
			自他ともに大切に思える取組とあらゆる偏見や差別、いじめをなくすための取組を推進する また、心理的安全性が保たれた学級を作る	B	多様性を育む環境づくりを工夫し、相手の立場に立つて物事を考える力を伸ばしていきたい	心理的安全性を保つ手段の一つとして、校内の照明を常時点灯させ、学校内を明るい雰囲気にする	A	基本的には、どの学年も、男女関係なく、仲が良いと感じる	引き続き、児童に丁寧な声かけを添い、早期対応を心がけていく
			奉仕活動、勤労生産活動や自然の中での体験活動の充実を図る	B	植栽やウサギの世話、ピオトープ学習等で積極的に活動している	引き続き、様々な分野における体験的な学習の充実を図っていく	A	体験活動が、よい情操教育になっている	予算確保も含め、持続可能な取組を目指す
確かな学力の向上	楽しく自ら「進んで学習する子」を育成する	学習意欲の向上（主体的な学び）と学びの個別最適化・協働化	問題解決的な学習を重視し、めあて・振り返りのある授業を通じて学習意欲の喚起を図る	B	様々な体験活動や経験が、学習意欲の向上につながっている	児童の学習意欲に応じ、教材作り等、引き続き、授業改善を図っていく	B	少人数の利点を生かした授業をしている	主体的に学習に取り組む態度を育てていく
			言語活動や読書活動の充実を基盤に、対話のある授業を実践し、考える力・表す力の育成を図る	B	読書量、書字、読解力について課題があると感じる場面がある	特別時程の日の朝に、さわやかタイムを設定し、読書の時間とする	B	積極的に読書に取り組む仕組み作りを期待	読書活動を意図的に取り入れる場を増やす
			タブレット端末の効果的な活用（教具から文具へ）を推進し、学びの個別最適化・協働化を図る また、情報活用能力と情報リテラシーの向上を図る	C	タブレットの活用は十分ではない ルールの徹底についても課題が見られる	タブレットの使用ルールや、授業での具体的な活用方法の共通理解を図る場を開く	B	タブレット活用の定着は見られるが、十分に活用できていない	タブレットの教員研修を定期的に行い、さらなる活用を促していく
健やかな体の育成	「丈夫な体をもつ子」を育成する	健康と体力づくりと命を守る教育の推進と特別支援教育等を含めた多様性のある教育環境の推進	体力アップカード、サーキットトレーニング、マラソン・なわとび月間等による日常的な取組により、体力維持と向上を図る	B	マラソン月間の取組や、「オリパラ」予算による特別授業などの取組は良かった	運動の日常化を図るため、体力アップカードによる取組を4月中に周知し、充実させる	A	マラソン月間や縄跳び月間の取組は、効果的だった	年間を通して日常的に運動に親しむ児童を増やしていく
			地域の実態を考慮した日常的な安全指導・安全管理の徹底と、実践的な避難訓練により、自分の命は自分で守る意識の向上を図る	B	概ね、命を守る行動を意識できている 安全指導の共通理解が課題	児童の対応力を育むような取組を取り入れる 毎月の安全指導の内容の確認を徹底	B	災害への危機意識は、向上していると感じられる	横断歩道の渡り方等、基本的な安全指導も大切にする
			特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実と、特別支援教育の推進により、多様性の理解を図る	B	児童の実態についての情報共有はできている 課題がある	特別支援関係の年間「TO DO リスト」を改善し、教員間で確実に共有し、実行していく	B	相談したという話は聞かないが、さらなる活用を望む	SCの活用や特別支援教育についての周知を図っていく
家庭や地域との連携	地域に根ざした「地域の風が行きかう学校」づくりを推進する	地域・保護者との連携と地域の環境や人材を活用した教育活動の推進	地域人材や環境を活用した体験活動（ヤマメ、ウサギ、蚕の飼育体験や野菜、稲作等の栽培体験）の充実を図る	B	年間を通し、様々な学年で、地域人材を活用した体験活動ができた	今後も引き続き、地域の方に協力依頼し、持続可能な取組を目指す	A	地域特性を生かした教育を推進している	地域人材の幅を広げ、地域学習の充実を図る
			各種たより、公開等、様々な機会を活用し、学校情報の発信に努める また、コミュニティ・スクール委員会を中心とした地域との連携を深める	B	学校長が「マチコミ」のタイムラインを活用し、学校の様子を配信することができた	地域との連携について、一定の成果があった CSの日程設定には、課題がある	A	随時情報発信があり、学校活動の様子が分かりやすい	学校の情報発信だけでなく、CSの情報発信も随時行う
			他校（第六中学校や成木小学校、おそき保育園等）との交流や合同学習の充実を図る	B	成木小学校とは、様々な学年での学習交流を行うことができた	交流活動では、交流目的を共通理解しながら、引き続き継続していく	B	連携はあるが、現状維持感の強さも感じる	成木小交流の拡充など、新たな試みを実施

\*評価 A：達成した B：ほぼ達成した C：もう少し D：達成できなかった